

ヨハネによる福音書

## The Gospel According to John

新約聖書の第4番目に配された福音書で、有名な聖句ではじまる福音書です。

「初めに言(ことば)があった。言(ことば)は神と共にあった。言(ことば)は神であった。」(新共同訳 1章 1節)

Εν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος ἦν πρὸς τὸν θεόν, καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος.

(Nestle-Aland 28th Edition Greek New Testament 1 : 1)

いわゆる共観福音書とよばれるマタイによる福音書、ルカによる福音書およびマルコによる福音書は主にガリラヤに焦点を当てていますが、ヨハネによる福音書にある出来事の大半は種々の祭りのときに、エルサレムとその周辺で生じたものです。また共観福音書にはない奇蹟の記事が5つあり(8つのうちの5つ)、思想・文体においても大きく趣きを異にし、多くの事跡、しるしが神の子イエスのあかしとして、またキリスト教教理(特に教会について)との有機的ないし象徴的連関において解説されています。また、それらの福音書に比べて生命や愛(神の愛、キリストの愛、キリスト教徒の愛)が一層強調されており、愛の福音書とも呼ばれています。イエスの神性と人間性とを示すことによって信徒に永遠の生命を得させようとする目的を持っています。

「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」(20章 31節)

著者はイエスの十二使徒のひとりであるヨハネ、執筆年代は共観福音書よりも後で紀元85~90年と考えられています。

(参照文献：ブリタニカ国際大百科事典電子辞書対応小項目版)

(参照文献：新改訳聖書 注解・索引・チェーン式引照付 いのちのことば社)

(参照文献：カラー 新聖書ガイドブック いのちのことば社)

(参照文献：広辞苑)